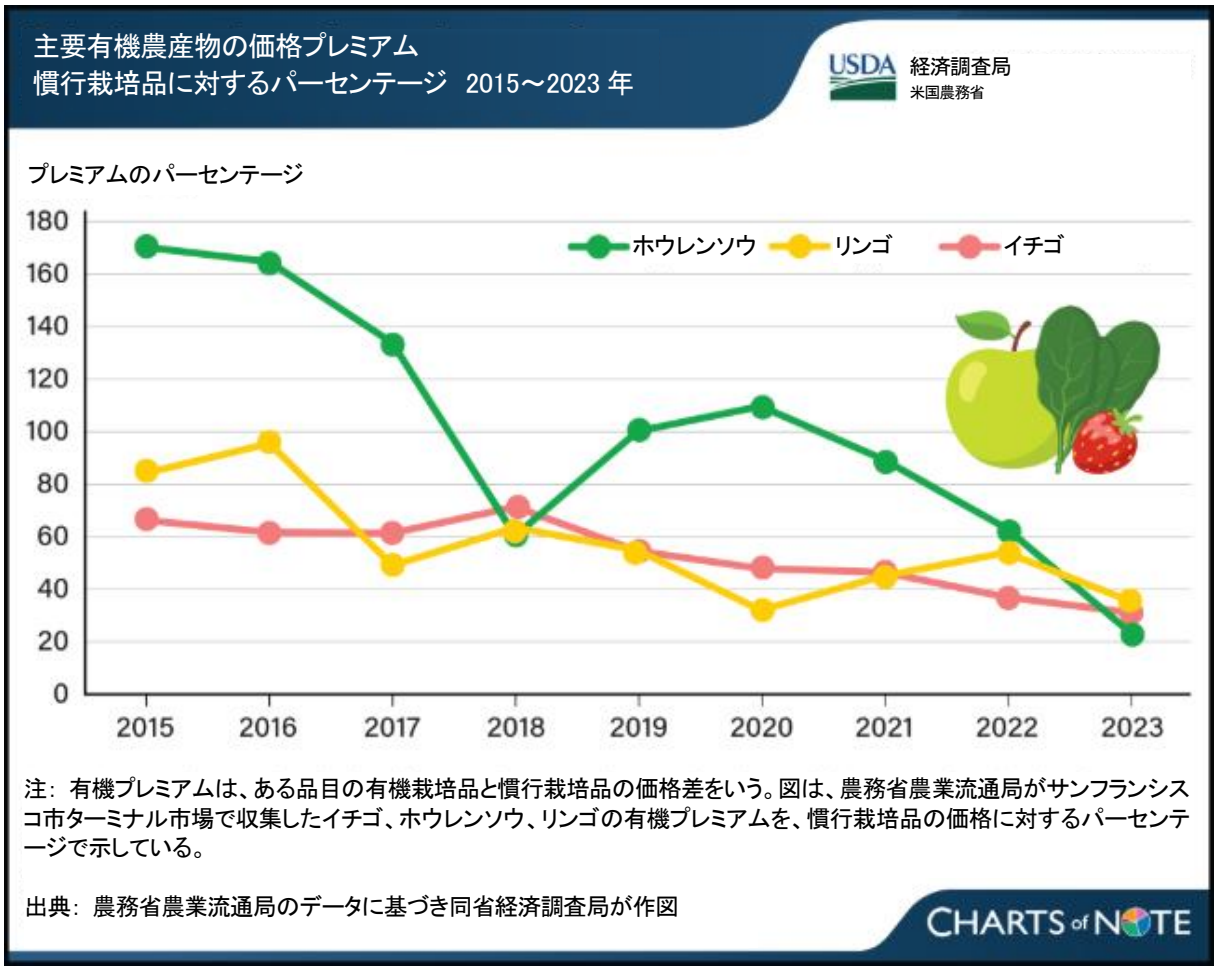
（公財）中央果実協会
No.409

米国　有機農産物と慣行栽培品の価格差が縮小

FreshFruitPortal　2025年2月20日

有機農産物の生産者は通常、商品に対して慣行栽培品よりも高い対価を受け取る。これが有機農業に関連するコストを賄うのに役立つ価格プレミアムである。しかし、米国農務省によると、リンゴやイチゴなどの主要な有機果実の場合、こうしたプレミアムは2015年以降次第に減少している。

2022年の食品価格のインフレは1979年以来最高となり、消費者は有機農産物と慣行栽培農産物の両方で食品価格の上昇を経験した。有機栽培品と慣行栽培品の両方の価格が上昇する中で、慣行栽培品の価格はより急激に上昇し、有機栽培品と慣行栽培品の価格差が縮小した。その結果、有機リンゴと有機イチゴの生産者達はプレミアムの縮小に直面し、より高い生産コストを正当化することが一層難しくなった。

COVID-19のパンデミックの間、有機農産物取引協会（OTA）は、コストの上昇にもかかわらず、有機生産者達がさらなる価格の引き上げを躊躇していることに注目した。この消極的な動きは、価格差が大きくなりすぎると、既に食品価格の高騰に直面している消費者が有機農産物から離れて行くかも知れないという懸念に起因している。極最近も、プレミアムの減少傾向は続いている。サプライチェーンの混乱と消費者の購買習慣の変化は価格競争をより激化させ、有機生産者が獲得できるプレミアムがさらに抑制されている。

（参考）　米国農務省資料から図のみ抜粋